

平成 26 年新春賀詞交歓会

平成 26 年 1 月 18 日(土)午後 5 時 00 分

於：明治大学紫紺館

社会保険労務士駿台会

懇親会次第

- | | | | |
|----------|--------------|-------|---------------|
| 1、開会 | 司会 | 事業部会員 | 原 敏昭
関水 裕子 |
| 2、ご挨拶 | 駿台会 | 会 長 | 齊藤 充弘 |
| 3、来賓挨拶 | | | |
| | 明治大学校友会 | 会 長 | 向殿 政男 様 |
| | 明治大学士業会 | 会 長 | 右山 昌一郎 様 |
| | 全国社会保険労務士桜門会 | 会 長 | 大野 実 様 |
| 4、来賓紹介 | | | |
| 5、乾杯 | 駿台会 | 顧 問 | 大槻 哲也 |
| 6、歓談 | 新入会員 | 紹介 | |
| 7、校歌斉唱 | | | |
| 8、閉会・中締め | 駿台会 | 幹事長 | 小室 豊 |

ご来賓出席者名

明 治 大 学 校 友 会	会 長	向 殿 政 男 様
明 治 大 学 法 学 部	助 教	金 惠 京 様
明 治 大 学 士 業 会	会 長	右 山 昌 一 郎 様
明 治 大 学 士 業 会	事 務 局 長	酒 寄 正 行 様
駿 台 会 計 人 俱 楽 部	副 会 長	酒 寄 正 行 様
駿 台 行 政 書 士 会	会 長	関 博 方 様
駿 台 行 政 書 士 会	副 会 長	小 野 寺 孝 成 様
全 国 社 会 保 険 労 務 士 桜 門 会	会 長	大 野 実 様
社 会 保 険 労 務 士 稲 門 会	会 長	村 上 芳 明 様
神 奈 川 大 学 社 労 士 宮 陵 会	会 長	佐 藤 重 夫 様
社 会 保 険 労 務 士 白 門 会	幹 事 長	阿 世 賀 陽 一 様
ア ラ イ 印 刷 株 式 会 社	代 表 取 締 役	若 村 和 之 様
有 限 会 社 ア ー ト ・ レ イ ア ウ ト	代 表 取 締 役	原 田 啓 治 様
社 労 士 総 合 研 究 機 構	研 究 員	島 袋 隆 志 様

出席会員名(順不同)

根 岸 伸 明	川 津 元 洋	三 平 和 男	齊 藤 雅 信
塚 越 幹 子	加 藤 利 昭	嶋 下 貞 子	大 槻 哲 也
長 尾 雅 昭	赤 澤 将	翁 川 み どり	萩 原 勇
蘇 武 則 之	府 川 芳 枝	府 川 洋 輔	赤 森 伸 子
家 村 啓 三	金 綱 久 夫	増 山 隆 司	金 綱 孝
河 村 博	小 室 豊	川 澄 佳 美	原 敏 昭
依 田 裕	富 田 朗	大 野 正 美	関 山 明 子
野 村 晃 弘	山 崎 順 子	真 家 裕 介	佐 藤 侑 子
関 水 裕 子	原 田 拓 哉	鏑 木 和 矢	雨 宮 真 吾
渡 邊 容 子	持 立 美 智 子	森 田 繁 樹	若 生 公 俊
野 村 陽 子	横 山 敬 子	加 藤 浩 之	清 水 淳 央
齋 藤 壽 實 穂	宮 原 和 博	山 口 恵 美 子	大 野 和 美
齊 藤 充 弘	広 部 敏 政	小 玉 高 毅	五 十 川 将 史

明治大学校歌

- 1、 白雲なびく駿河台 眉秀でたる若人が
 撞くや時代の暁の鐘 文化の潮みちびきて
 遂げし維新の栄になふ 明治その名ぞ我等が母校
 明治その名ぞ我等が母校

- 2、 権利自由の揺籃の 歴史は古く今もなほ
 強き光に輝けり 独立自治の旗翳し
 高き理想の道を行く 我等が健児の意気をば知るや
 我等が健児の意気おば知るや

- 3、 霊峰不二を仰ぎつつ 刻苦研鑽他念なき
 我等に燃ゆる希望あり いでや東亜の一角に
 時代の夢を破るべく 正義の鐘を打ちて鳴らさむ
 正義の鐘を打ちて鳴らさむ

※ 金 恵京（キム・ヘギョン）先生のプロフィール

2000年 明治大学 法学部法律学科 卒業

2002年 早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 国際関係学専攻修士課程修了

2006年 ローファーム Morrison&Foester 本部 国際弁護士

2012年 明治大学 法学部 助教 現在に至る

著書：「涙と花札—韓流と日流のあいだで」 他

平成 26 年 1 月 18 日 (土) 午後 4 時～

於：明治大学 紫紺館

司会 幹事長 小室 豊

平成 26 年社会保険労務士駿台会新春講演会

講演会演題 「韓流と日流のあいだで」

講 師 明治大学 法学部 助教 金 惠京 (キム・ヘギョン) 先生

講師プロフィール

2000 年 明治大学 法学部法律学科 卒業

2002 年 早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科国際関係学専攻修士課程修了

2006 年 ローファーム Morrison&Foester 本部 国際弁護士

2012 年 明治大学 法学部 助教 現在に至る

著書： 「涙と花札—韓流と日流のあいだで」 他